

バンコク都高校生ディスカッション報告

平成28年10月22日：主催 愛知県国際課
愛知県立津島高等学校 1年 竹谷祐香・松本ひび喜



活動内容

9時50分 集合
はじめの挨拶、説明等
グループごとに自己紹介
会場見学にあたっての説明
トリエンナーレ会場見学
展示についてのディスカッション
英語での感想発表

11時50分 開会

愛知県の高校生は「あいちトリエンナーレ」をテーマにバンコク都の学生とディスカッションを行った。

- ・あいちトリエンナーレ
～美術、映像、音楽、パフォーマンス、オペラなどを広く複合的に扱う国際芸術祭～



はじめの挨拶、説明





私達、津島高生は一宮西高校の生徒（各2名）とバンコク都の高校生（4名）とグループになり（計8名）、ディスカッション等、交流を行った。

会場見学



←日本の昔話「さる・かに合戦」をテーマ作られた現代アート。

さる・かに合戦のストーリーを話すととても喜んでくれた。これは柿の木の目が出たところ



これらは人体を模して造られたもの。この広い展示室では肺に見立てられたアコーディオンの呼吸をする音だけが響いていた。

右上↑タイの人たちはとても明るく、笑うことが好きだ。私達を笑わせようとしているところ



世界の子供の落書きを集めた展示

右→日本の小学生が書いた、アニメのキャラクター。タイの学生の間でも人気だそうだ。共通の話題が持てた。



このディスカッションで一番強く感じたことは、英語の重要性だ。日本人は日本語を、タイ人はタイ語を話す。本来なら私達が言葉を交わすことは困難だ。しかし英語という道具は、技術は、大好きな彼らと話すことをかなえてくれる。高一の私たちが話せる英語は数多くないが、意見を言ったり、冗談を言ったり、彼らと仲良くなるには十分だった。

